



ロータリー：変化をもたらす

P.ハリス著『ロータリーの理想と友愛』 宮本圭介氏(淡路三原R.C.)

職業奉仕セミナー (2017.12.2)
「超我の奉仕の探究 ～ロータリーの内から、外から～」

ロータリーの創始者、P. ハリスの著作
「This Rotarian Age (ロータリーの理想と友愛)」
を通して、P. ハリスの思想と行動

Paul P Harris (1868-1947)

1868 (明治元)	Wisconsin州ラシーンで生まれる	1861-65 アメリカ南北戦争
1871-89	一家離散、祖父母のもとへ (3-21歳)	
1889-91	アイオワ大学、弁護士資格 (21-23歳)	1890 フロンティアの開拓
1891-96	5年間の放浪 (23-28歳)	1894-95 日清戦争
1896	シカゴにて弁護士開業 (28歳)	



VI 復興 The Renaissance VII 卵殻を後に Goodbye Chrysalis ...We Must Be Off

- ・ 親睦中心派が圧倒的であったなか、対社会的な拡張を意識し始めていたP.ハリスにとって、1908年に入会したアーサー・フレドリック・シeldonは天のたすけであった。
- ・ 第2回全国ロータリー大会で、綱領として採択されたシeldonの標語「He profits most who serves best 最も善くサービスを為す者は最も多くを利益す」は、ロータリーの運動の方向を的確に明示した。実業職業上の正当な取引および高尚な道徳水準の重要性を強調した。
- ・ 「Service above Self サービス第一、自己第二」とともに、ロータリーの指導理念の表現として無限の尊敬を博した。



V ロータリーの創生 Genesis of Rotary

…著者は何人に向かっても各々その母国に対する忠順を表明する権利を持つことを是認するものである。著者は信ずる、国がどこであっても何人も母国に不信であつては、よく自己を發揚し得るものではない。何人も母国をあくまで敬愛しなくてはならない。そうして母国を愛せば当然母国に対する敵を作らないことに心する。…

…一つの個人、宗教、党派、国民が、他の個人、宗派、党派、国民を憎みさげすむのは、彼または彼らがその相手を知らないからであるに過ぎない。憎悪、軽蔑の底に横たわるものは無知であり、無知は平和の脅威である。…



緒言 (米山梅吉)

…おのおのその祖国に忠良な国民であつて、種々職業を異にした実業人が広く友愛の主義によつて結合し、まずその道徳水準を高めて自己の利益を第一とする態度を改め、もつぱら国家社会の福利に貢献するところがあるように奉仕の精神を基調として会同し、政治宗教の外に立ち国際の親善、やがては世界の平和をこいねがうロータリー運動の理想と、その組織の真相を周知させるためこの書を得たのはまことにさいわいである。…

